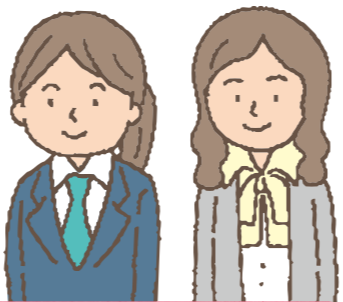


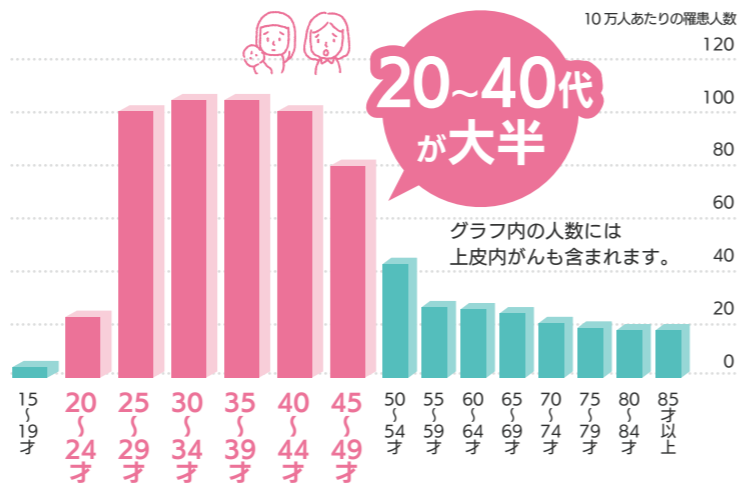
# 高校2年生以上の女の子 成人女性の方へ

自費で3回  
合計約10万円



## 子宮頸がん と HPV(ヒトパピローマウイルス)

HPVには100種類以上の型があり、その一部にがん(悪性腫瘍)の発症に関係する型(=ハイリスクHPV)があります。このハイリスクHPVが子宮の入り口(=子宮頸部)の細胞に長い期間感染すると、数年から十数年かけて子宮頸がんを発症してしまうことがあります。また、尖圭コンジローマという性感染症の原因にもなります。



子宮頸がんで亡くなる人数  
**8人/日**

治療のため多くの女性が  
**子宮摘出**

## 17歳以上の女性へのHPVワクチンの効果と有効性

HPVワクチンは HPVの感染を予防するワクチンで、既に感染したウイルスを排除する効果はありません。しかし、性交渉をすると必ず感染するわけではないので、初交後のHPVワクチン接種も十分に効果があります。実際に、17歳以上で4価のHPVワクチン(4種類のHPVを予防)を接種することで、将来の子宮頸がんの約53%を防ぐことがわかっています。9価のHPVワクチン(9種類のHPVを予防)であれば、更に効果が高いと考えられています。このため、HPVワクチンは26歳以下の全ての女性に接種が勧められており、27~45歳の女性も一定の効果が期待できます。



## HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは2019年までに世界で合計約5億回以上接種されている安全なワクチンです。数多くの研究で、「HPVワクチンは特別に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない」ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。

## 26歳以下の女性にはなるべく早めの接種がおすすめです

- 自費での接種が可能です。
- 産婦人科や内科などで接種できます。
- 合計約10万円かかりますが、医療機関によって異なりますので、事前にお問い合わせください。
- すでに定期接種対象年齢を過ぎていますので、なるべく早めの接種がおすすめです。



### 国による積極的な推奨の再開

2013年以降、厚生労働省はHPVワクチンの安全性が十分確認できるまで、積極的に接種をすすめることを中止していました(いわゆる積極的接種勧奨の差し控え)。しかし、2021年11月に行われた専門家の会議で、HPVワクチンの安全性には問題がないことが確認され、有効性がリスクを明らかに上回ると判断されたため、国による接種の推奨が再開されました。世界の主要な保健機関(世界保健機関 WHO)、米国疾病予防管理センター [CDC] など HPV ワクチンの安全性を認めており、接種を推奨しています。

# がんを予防できる ワクチン 知ってますか?

全ての人に  
関係がある

日本だけ・子宮頸がんだけで毎年3,000人、その他の関連する病気も含めると、男女問わず年間数千人もの命を奪っているHPV(ヒトパピローマウイルス)。ご自身やお子さんの年齢・性別に合うページを見つけて、HPV感染を予防するワクチンについて、一緒に理解を深めましょう。

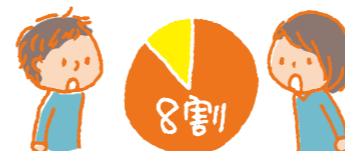


高校2年生以上の女の子と成人女性の方へ **4** ページへ

高校1年生以下の女の子とその保護者の方へ **2** ページへ

男子とその保護者 成人男性の方へ **3** ページへ

HPVはともありふれたウイルスで8割以上の男女が一生のうちに一度は感染しています



子宮頸がんのうち95%以上は HPVの感染によるものです



男性に多い中咽頭がんや肛門がんも HPVの感染が原因の一つです



HPVワクチンにより、HPVの感染を防ぐことができます HPVワクチンの安全性は確認されており、国が積極的におすすめしています



日本では小学校6年生から高校1年生までの女の子は HPVワクチンの定期接種の対象で無料で接種できます



15歳未満で1回目を接種すると全2回の接種で接種完了します(15歳以上は全3回)

一部の自治体では男子も無料で接種できます(小学校6年生~高校1年生) 住民票のある市区町村の制度をチェック!



「みんなが知りたい HPVプロジェクト」は HPVによって引き起こされる病気と予防方法についてわかりやすく解説します!

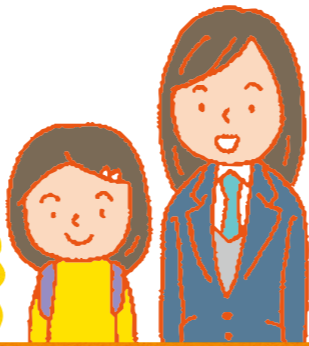
みんなが知りたい HPV

この資料よりさらに詳しい情報を知りたい方はこちら!



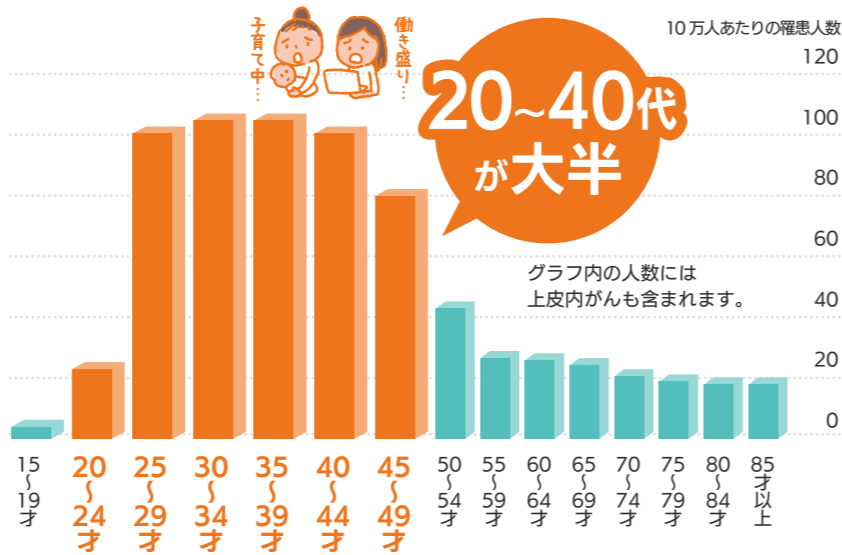
# 高校1年生以下の女の子とその保護者の方へ

15歳未満で1回目を接種すると全2回の接種で接種完了します



## 子宮頸がんとHPV(ヒトパピローマウイルス)

HPVには100種類以上の型があり、その一部にがん(悪性腫瘍)の発症に関与する型(=ハイリスクHPV)があります。このハイリスクHPVが子宮の入り口(=子宮頸部)の細胞に長い期間感染すると、数年から数十年かけて子宮頸がんを発症してしまふことがあります。また、**尖圭コンジローマ**という性感染症の原因にもなります。



子宮頸がんで亡くなる人数 **8人/日**

治療のため多くの女性が **子宮摘出**

### 女子へのHPVワクチンの効果

HPVワクチンを接種すると、HPVに対する「抗体」が体内でつくられ、HPVの感染を防ぎます。HPVワクチンの接種により子宮頸がんの原因になる**HPV感染を約9割防ぐことができます**。また、なるべく若年での接種の方が**効果が高い**ことが分かっています。



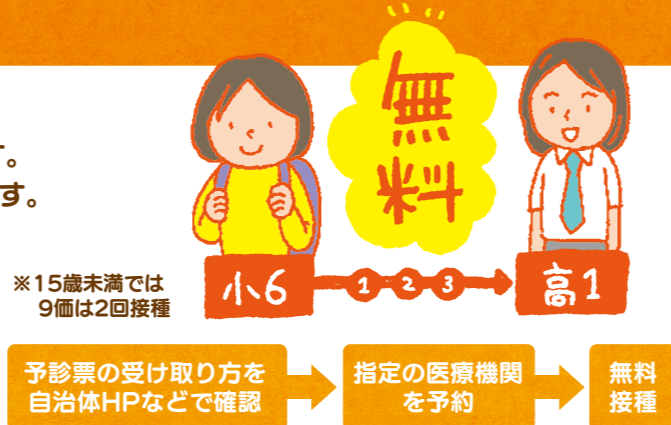
### HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは2019年までに**世界で合計約5億回以上接種**されている安全なワクチンです。数多くの研究で、**「HPVワクチンは特に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない」**ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。



## HPVワクチンの公費助成と接種方法

HPVワクチンは国の定める定期予防接種で「**小学校6年生~高校1年生の女の子**」は無料で接種できます。定期予防接種の予診票の発送時期は市区町村により異なります。接種する際には、予診票を確認し、指定の医療機関に予約をとって受診しましょう。**15歳未満**で9価HPVワクチンの1回目の接種を済ませた場合は、**全2回で接種が完了**します(15歳以上で接種開始する場合は全3回となります)。



### 国による積極的な推奨の再開

2013年以降、厚生労働省はHPVワクチンの安全性が十分確認できるまで、積極的に接種をすすめることを中止していました(いわゆる積極的接種勧奨の差し控え)。しかし、2021年11月に行われた専門家会議で、HPVワクチンの安全性には問題がないことが確認され、有効性がリスクを明らかに上回ると判断されたため、国による接種の推奨が再開されました。世界の主要な保健機関(世界保健機関[WHO]、米国疾病予防管理センター[CDC]など)もHPVワクチンの安全性を認めており、接種を推奨しています。

# 男の子とその保護者と成人男性の方へ



一部の自治体では無料

## 男性に関するHPV(ヒトパピローマウイルス)が引き起こす病気

HPVというと子宮頸がんなど女性の病気の原因というイメージがあるかも知れませんが、**でも、実は中咽頭がんや陰茎がん、肛門がんなど男性に起こるがんの原因にもなるのです**。これらに加えて、**尖圭(せんけい)コンジローマ**という性器のイボもHPVの関連疾患です。



### 男性へのHPVワクチンの効果

HPVワクチンを接種すると、HPVに対する「抗体」が体内でつくられ、HPVの感染を防ぎます。日本では、**肛門がんの約8~9割、中咽頭がんの約半分**で**HPV感染が原因**だと言われており、それらはHPVワクチンで予防できると考えられています。また、尖圭コンジローマという性感染症も予防できます。そして、男性がHPVワクチンを接種することは、**大切なパートナーを病気から守ることもつながります**。



### HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは、2019年までに**世界で合計約5億回以上接種**されている安全なワクチンです。数多くの研究で、**「HPVワクチンは特に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない」**ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。

## HPVワクチンの接種方法

9歳以上の男性は9価のHPVワクチンが接種可能で、接種する場合には年齢に関わらず**自費**になります(2023年4月時点)。**15歳未満は計2回、15歳以上は計3回の接種が必要**で、医療機関や種類によって異なりますが、自治体からの補助がない場合は1回あたり約3万円かかります。医療機関に問い合わせ、HPVワクチンを男性も接種可能か、事前にご確認ください。**一部の自治体では男の子(小学校6年生~高校1年生)も無料で接種**できます。住民票のある市区町村のウェブサイト等をぜひご確認ください。

一部自治体で無料😊

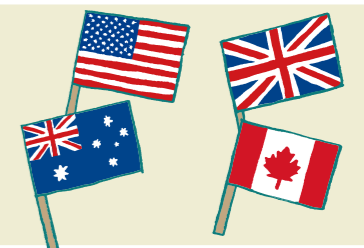


小6~高1

医療機関に問い合わせ HPVワクチンを男性も接種可能か → 接種

### 国内外の公的機関の見解

世界中の100以上の国と地域で女性だけでなく男性にもHPVワクチンの適応があり、アメリカ、イギリス、オーストラリアなど約40の国と地域では男性のHPVワクチン接種にも公費助成をしています。実際にオーストラリアでは約9割、アメリカでは約6割の男性がHPVワクチンを接種しています。日本では2025年8月に9価HPVワクチンの男性への接種が承認されました。



# がんを予防できる ワクチン 知ってますか?

全ての人に  
関係がある

日本だけ・子宮頸がんだけで毎年3,000人、  
その他の関連する病気も含めると、男女問わず  
年間数千人もの命を奪っているHPV(ヒトパピローマウイルス)。  
ご自身やお子さんの年齢・性別に合うページを見つけて、  
HPV感染を予防するワクチンについて、一緒に理解を深めましょう。



高校2年生以上  
の女の子と  
成人女性の方へ

4

ページへ

高校1年生以下  
の女の子と  
その保護者の方へ

2

ページへ

男の子と  
その保護者  
成人男性の方へ

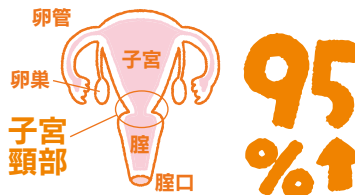
3

ページへ

HPVはとともありふれたウイルス  
で8割以上の男女が一生のうちに  
一度は感染しています



子宮頸がんのうち95%以上は  
HPVの感染によるものです



男性に多い中咽頭がんや肛門がん  
もHPVの感染が原因の一つです



HPVワクチンにより、  
HPVの感染を防ぐことができます  
HPVワクチンの  
安全性は確認されており、  
国が積極的におすすめ  
しています

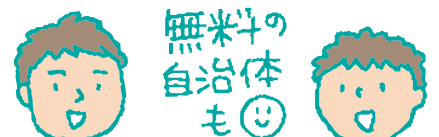


日本では小学校6年生から  
高校1年生までの女の子は  
HPVワクチンの定期接種の対象で  
無料で接種できます

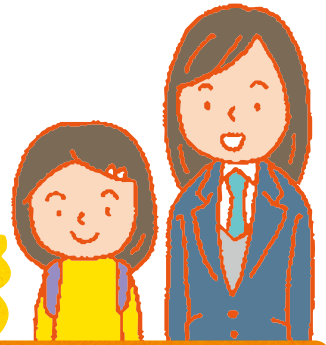


15歳未満で  
1回目を接種すると  
全2回の接種で  
接種完了します  
(15歳以上は全3回)

一部の自治体では  
男の子も無料で接種できます  
(小学校6年生～高校1年生)  
住民票のある市区町村の制度を  
チェック!



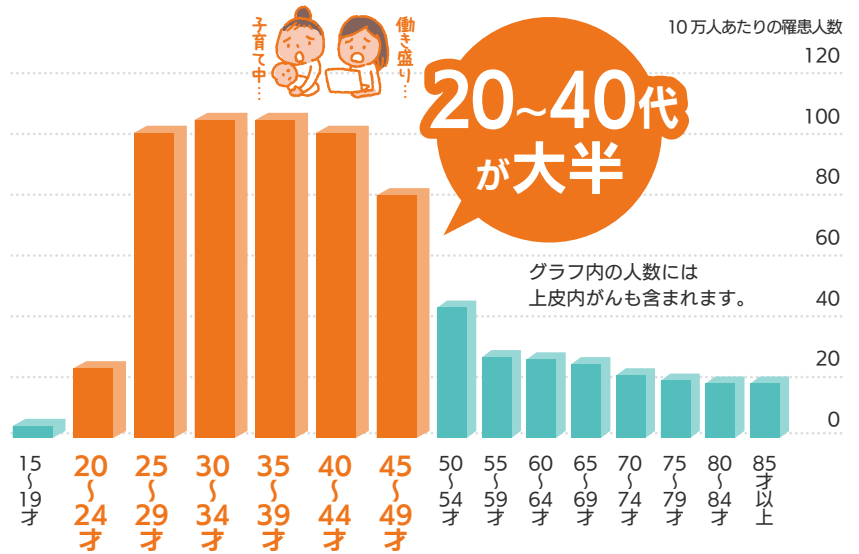
# 高校1年生以下の女の子 とその保護者の方へ



15歳未満で  
1回目を接種すると  
全2回の接種で  
接種完了します

## 子宮頸がん と HPV (ヒトパピローマウイルス)

HPVには100種類以上の型があり、その一部にがん(悪性腫瘍)の発症に関係する型(=ハイリスクHPV)があります。このハイリスクHPVが子宮の入り口(=子宮頸部)の細胞に長い期間感染すると、数年から十数年かけて子宮頸がんを発症してしまふことがあります。また、尖圭コンジローマという性感染症の原因にもなります。



子宮頸がんで亡くなる人数 **8人/日**

治療のため多くの女性が **子宮摘出**

### 女子へのHPVワクチンの効果

HPVワクチンを接種すると、HPVに対する「抗体」が体内でつくられ、HPVの感染を防ぎます。HPVワクチンの接種により子宮頸がんの原因になるHPV感染を約9割防ぐことができます。また、なるべく若年での接種の方が効果が高いことが分かっています。



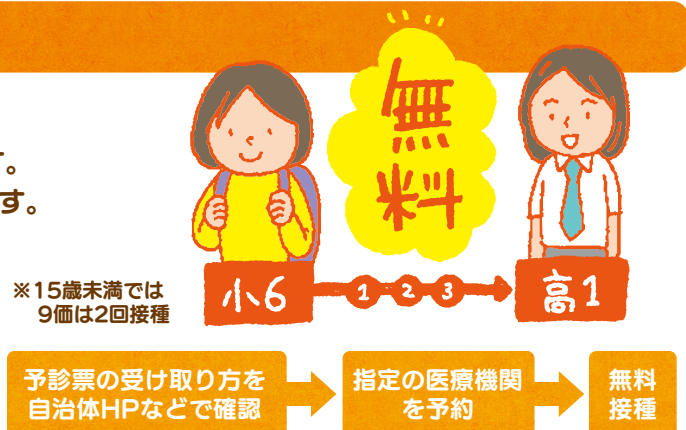
### HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは2019年までに世界で合計約5億回以上接種されている安全なワクチンです。数多くの研究で、「HPVワクチンは特別に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない」ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。



## HPVワクチンの公費助成と接種方法

HPVワクチンは国の定める定期予防接種で「小学校6年生~高校1年生の女の子」は無料で接種できます。定期予防接種の予診票の発送時期は市区町村により異なります。接種する際には、予診票を確認し、指定の医療機関に予約をとって受診しましょう。15歳未満で9価HPVワクチンの1回目の接種を済ませた場合は、全2回で接種が完了します(15歳以上で接種開始する場合は全3回となります)。



### 国による積極的な推奨の再開

2013年以降、厚生労働省はHPVワクチンの安全性が十分確認できるまで、積極的に接種をすすめることを中止していました(いわゆる積極的接種勧奨の差し控え)。しかし、2021年11月に行われた専門家の会議で、HPVワクチンの安全性には問題がないことが確認され、有効性がリスクを明らかに上回ると判断されたため、国による接種の推奨が再開されました。世界の主要な保健機関(世界保健機関[WHO])、米国疾病予防管理センター[CDC]などもHPVワクチンの安全性を認めており、接種を推奨しています。

# 男の子とその保護者と成人男性の方へ



一部の自治体では無料

## 男性に関する HPV(ヒトパピローマウイルス)が引き起こす病気

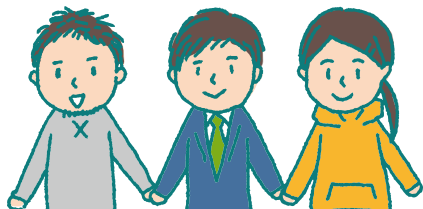
HPVというと子宮頸がんなど女性の病気の原因というイメージがあるかも知れませんが、**でも、実は中咽頭がんや陰茎がん、肛門がんなど男性に起こるがんの原因にもなるのです。**これらに加えて、**尖圭(せんけい)コンジローマ**という性器のイボもHPVの関連疾患です。



### 男性へのHPVワクチンの効果

HPVワクチンを接種すると、HPVに対する「抗体」が体内でつくられ、HPVの感染を防ぎます。日本では、**肛門がんの約8~9割、中咽頭がんの約半分**で**HPV感染が原因**だと言われており、それらはHPVワクチンで予防できると考えられています。また、尖圭コンジローマという性感染症も予防できます。そして、男性がHPVワクチンを接種することは、**大切なパートナーを病気から守ることもつながります。**

パートナーを守ることも



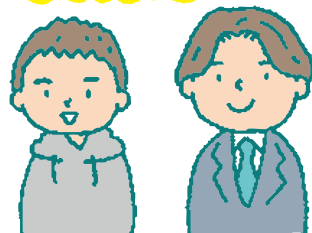
### HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは、2019年までに**世界で合計約5億回以上接種**されている安全なワクチンです。数多くの研究で、**「HPVワクチンは特別に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない」**ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。

## HPVワクチンの接種方法

9歳以上の男性は9価のHPVワクチンが接種可能で、接種する場合には年齢に関わらず自費になります(2023年4月時点)。**15歳未満は計2回、15歳以上は計3回の接種が必要で、**医療機関や種類によって異なりますが、自治体からの補助がない場合は1回あたり約3万円かかります。医療機関に問い合わせ、HPVワクチンを男性も接種可能か、事前にご確認ください。**一部の自治体では男の子(小学校6年生~高校1年生)も無料で接種**できます。住民票のある市区町村のウェブサイト等をぜひご確認ください。

一部の自治体で無料😊

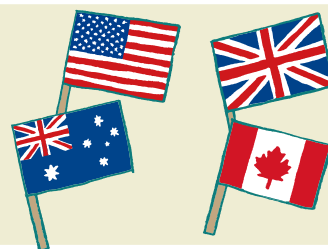


小6~高1

医療機関に問い合わせ HPVワクチンを男性も接種可能か → 接種

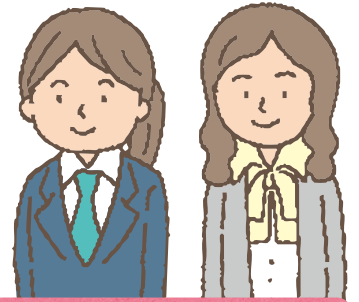
### 国内外の公的機関の見解

世界中の100以上の国と地域で女性だけでなく男性にもHPVワクチンの適応があり、アメリカ、イギリス、オーストラリアなど約40の国と地域では男性のHPVワクチン接種にも公費助成をしています。実際にオーストラリアでは約9割、アメリカでは約6割の男性がHPVワクチンを接種しています。日本では2025年8月に9価HPVワクチンの男性への接種が承認されました。



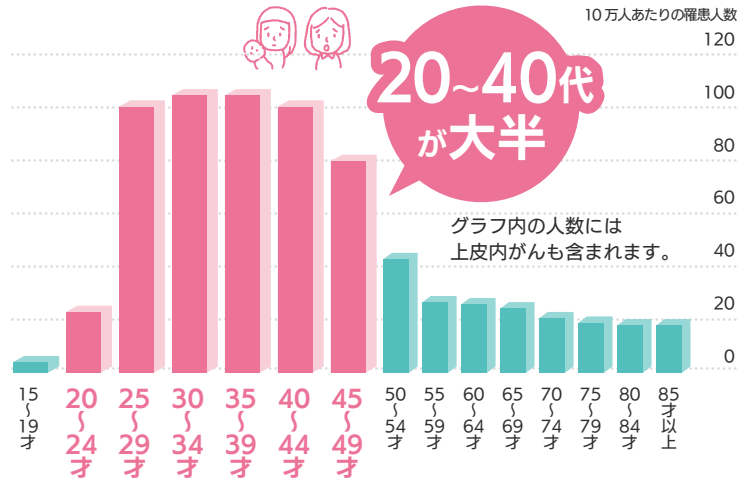
# 高校2年生以上の女の子 成人女性の方へ

自費で3回  
合計約10万円



## 子宮頸がん と HPV(ヒトパピローマウイルス)

HPVには100種類以上の型があり、その一部にがん(悪性腫瘍)の発症に関係する型(=ハイリスクHPV)があります。このハイリスクHPVが子宮の入り口(=子宮頸部)の細胞に長い期間感染すると、数年から十数年かけて子宮頸がんを発症してしまふことがあります。また、尖圭コンジローマという性感染症の原因にもなります。



子宮頸がんで亡くなる人数  
**8人/日**

治療のため多くの女性が  
**子宮摘出**

### 17歳以上の女性へのHPVワクチンの効果と有効性

HPVワクチンは HPVの感染を予防するワクチンで、既に感染したウイルスを排除する効果はありません。しかし、性交渉をすると必ず感染するわけではないので、初交後のHPVワクチン接種も十分に効果があります。実際に、17歳以上で4価のHPVワクチン(4種類のHPVを予防)を接種することで、将来の子宮頸がんの約53%を防ぐことがわかっています。9価のHPVワクチン(9種類のHPVを予防)であれば、更に効果が高いと考えられています。このため、HPVワクチンは26歳以下の全ての女性に接種が勧められており、27~45歳の女性も一定の効果が期待できます。

HPVワクチン

感染を予防

26歳以下の全ての女性も

27~45歳女性も

### HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは2019年までに世界で合計約5億回以上接種されている安全なワクチンです。数多くの研究で、「HPVワクチンは特に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない」ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。

## 26歳以下の女性はなるべく早めの接種がおすすめです

- 自費での接種が可能です。
- 産婦人科や内科などで接種できます。
- 合計約10万円かかりますが、医療機関によって異なりますので、事前にお問い合わせください。
- すでに定期接種対象年齢を過ぎていますが、なるべく早めの接種がおすすめです。

小生交歴アリでもOK

自費

26歳以下の女性

早め!

### 国による積極的な推奨の再開

2013年以降、厚生労働省はHPVワクチンの安全性が十分確認できるまで、積極的に接種をすすめることを中止していました(いわゆる積極的接種勧奨の差し控え)。しかし、2021年11月に行われた専門家の会議で、HPVワクチンの安全性には問題がないことが確認され、有効性がリスクを明らかに上回ると判断されたため、国による接種の推奨が再開されました。世界の主要な保健機関(世界保健機関WHO)、米国疾病予防管理センター[CDC]など、HPVワクチンの安全性を認めており、接種を推奨しています。